真葛邸面影
錦昇堂梓
廿三編下

種彦作
芳虎畫
廿三編上

種彦作

芳虎畫

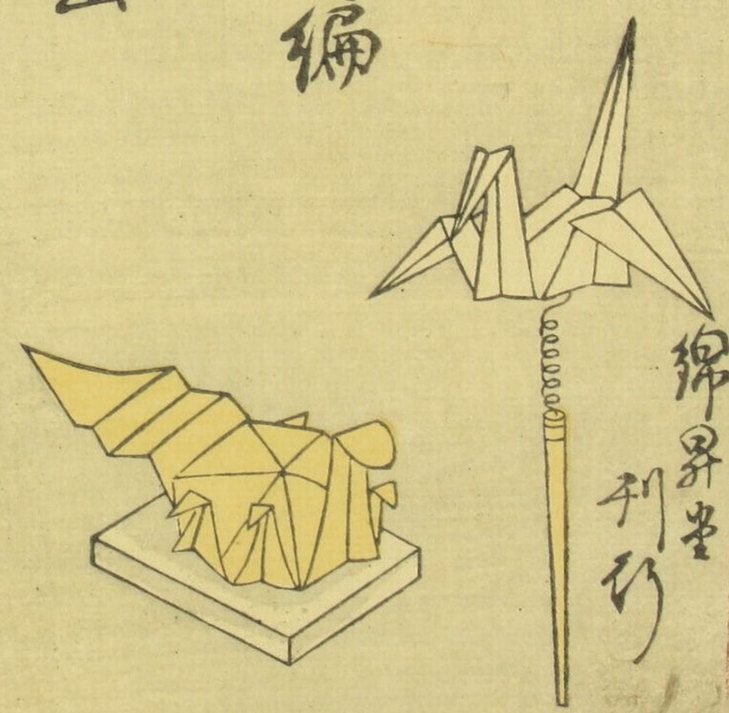
廿三編上

繰言

世三編

種彦作

芳虎画



錦昇堂
刊行

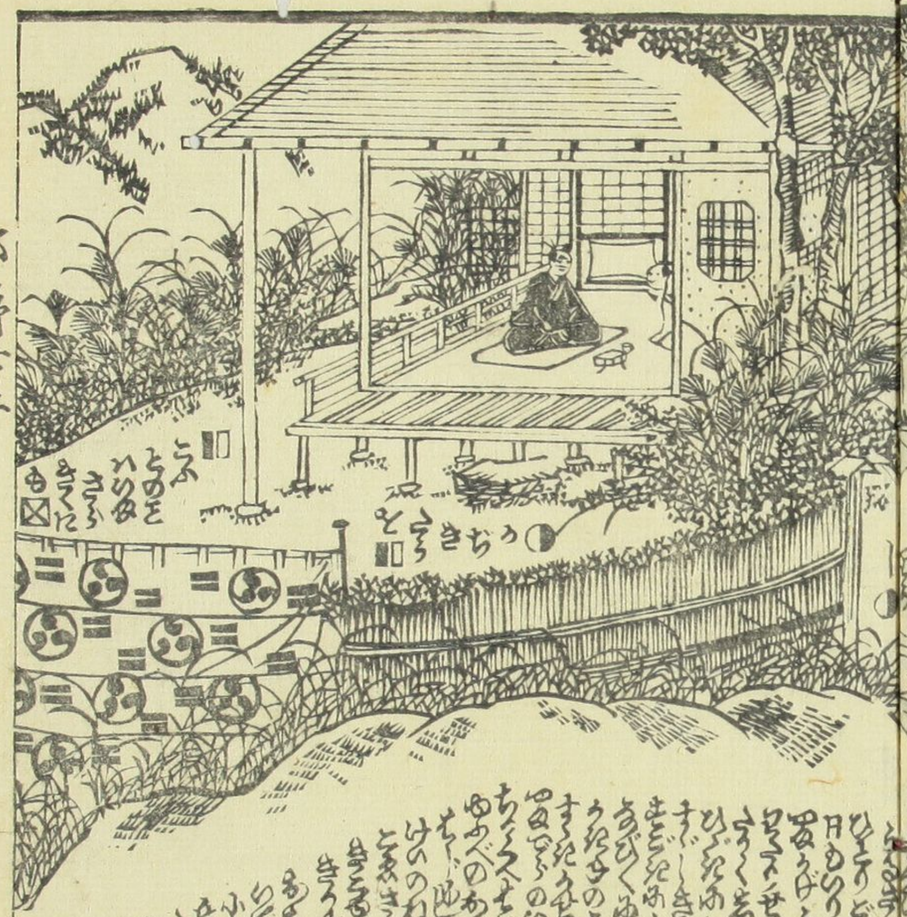
此七世三編の序文を記して復も同じく繰言なるべし。初音胡蝶と春色の浮華せしこと吏異り。鈴虫夕霧と引つづく秋の哀情は賀祥正月物語に向かつてくさて其次は御法幻何等の事を作りとなすべし紫上らせさせさるひ源氏の君悲傷の餘弥出家と決心乃話是なるべし一番目の大詰なれ昔譚はさてもあれ有まん傳奇がたの流行る繪草紙には用ゐざるべし同じく愁歎場は身替りその子別なる云ふるる筋なるべし泣水好の御婦人がたは適意なるべし知らずとも是なるべし仕組も妾おのれ我等このまふは不及と抱る匙なるべし思出せば病気を歎樂不幸を吉事衰日を德日なるべし称へ中昔の忌語を趣向の種なるべし憂を轉じて喜とせば紫の上輝氏君を対面々々と引こなせども用る則はいつぐも使へる仙家の自由此口重なるほのめかし絶々しなる夕霧も蕎麦切を買ひ。なるべし狂々の意なるべし此夕霧も半分は絶々なる短く結び世四編の末なるべし両立者の一世一代御評判なるべしとなるべしなるべし口上なるべし

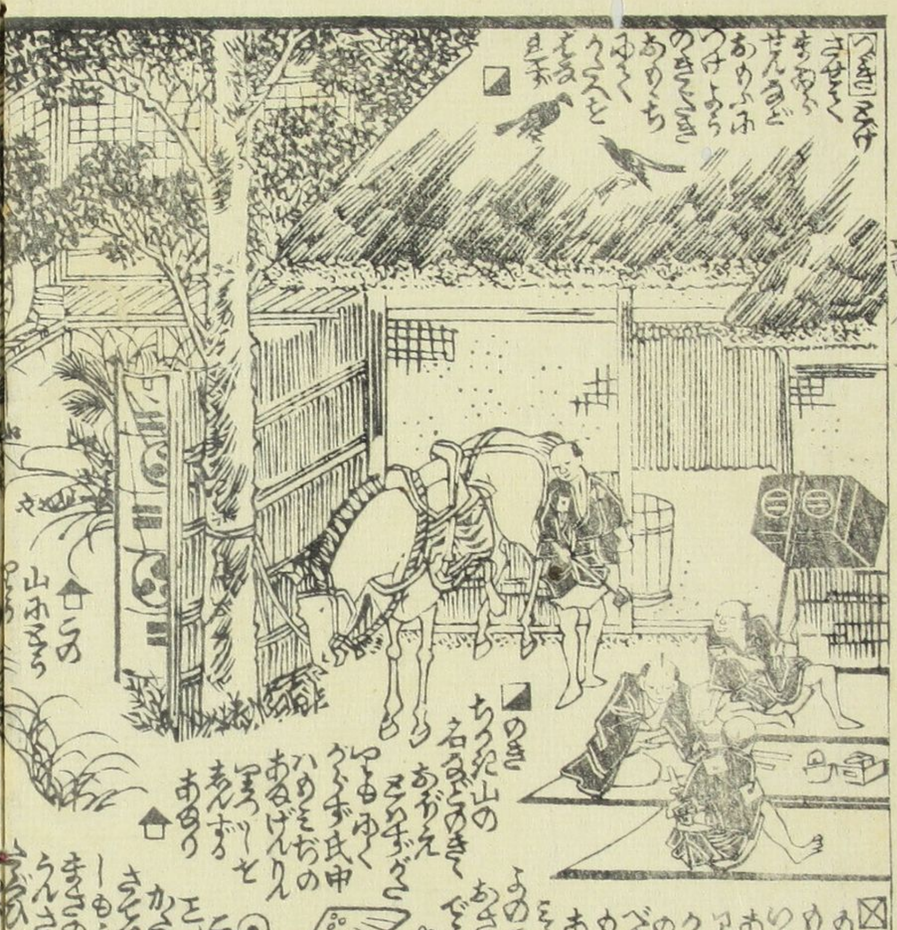
柳亭種彦

嵯峨仙居行樂圖
六條准后道號騰雲隱者
鈴屋集
紫上道號賞花王母

雛遊
昔面影
春之壹

昔とゝ
ゆのり
きさらぎ





奥の間
瀬の間

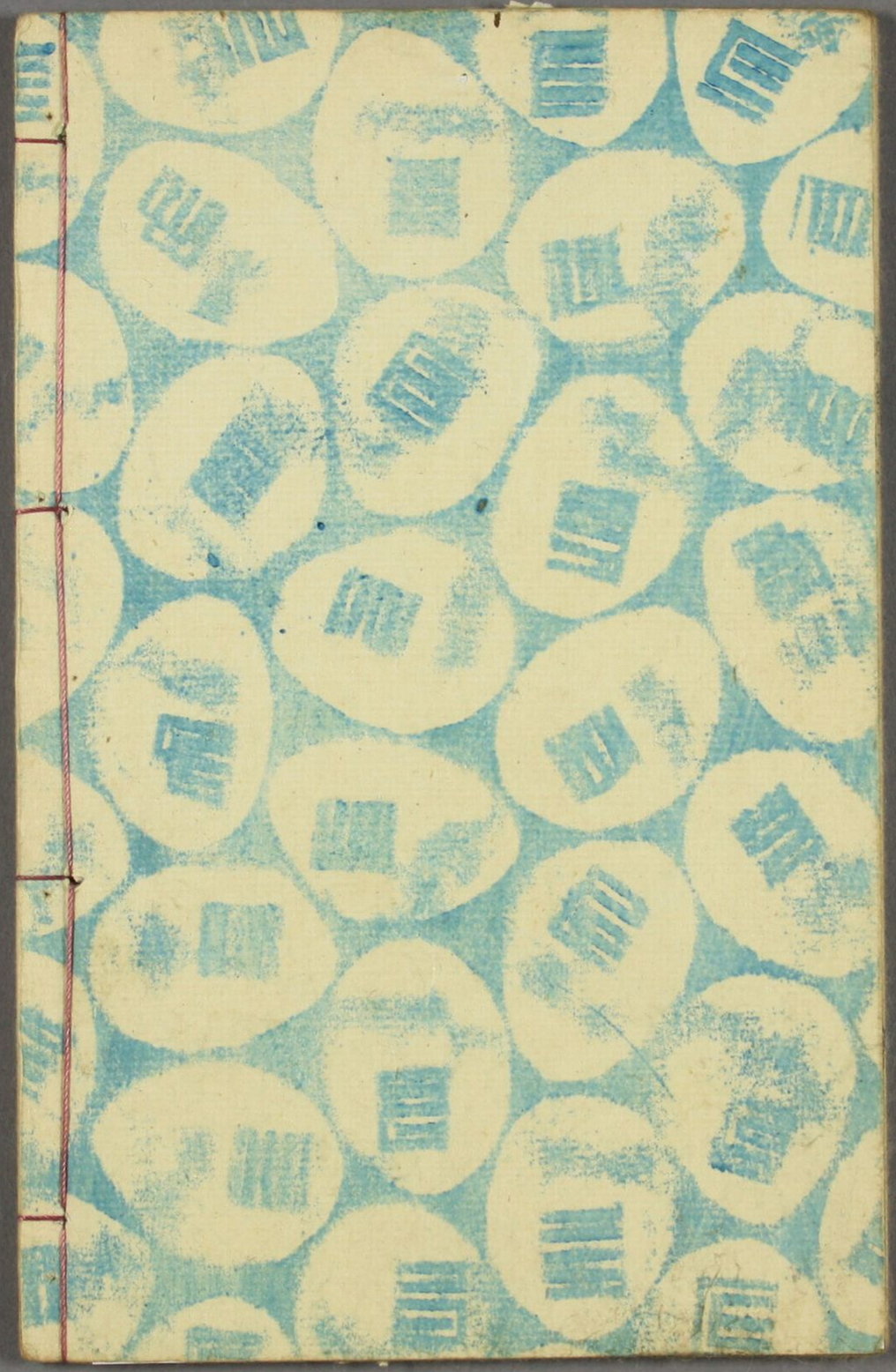
氏
落

種彦著 芳虎畫

滑稽富士詣

東都一盃齋芳虎画

地本繪草紙問屋　照降町　笑壽屋庄七梓



真鄙雲面影

廿三編下

錦斎芳梓

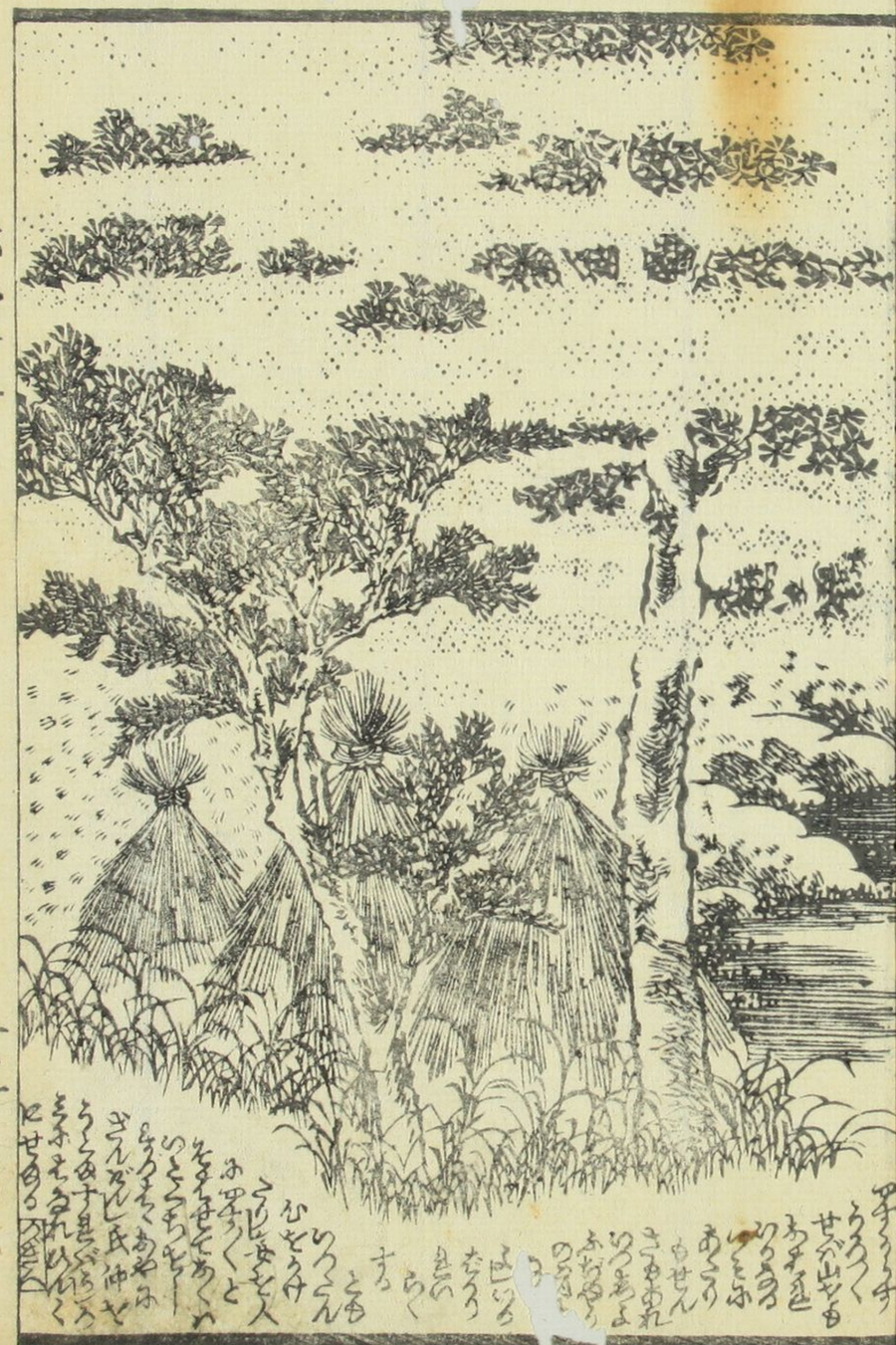
び那乃おそのみ

二十三篇下

柳亭種彦 著

虎岳斎 画

明治文庫



氏
右
氏

後朝の文
此一張ハ雪井流
後朝の文ハ小野山へ
やつりあしと同日の
ことなれどこの巻ハ
あどきとあくしせ五帯
ふくりそのさてこまり

将
茶

稲妻形
怪鼠標
子七編
魯文作
國明画

其由縁鄙俤 二十一編 二十二編 種彦作 國貞画

十勇士尼子の礎 五 六 魯文作 芳虎画

兩夜鐘四谷雑談 九 十 魯文作 芳虎画

比奈乃都太内譚 三 四 種彦作 芳虎画

地本問屋 江戸てりはのすや 庄七

種彦作
芳虎画
錦昇堂梓
合十二